

# 江戸中期の漢詩文にみる画人関係資料

## —事項一覧編・補遺—

杉本欣久

### はじめに

索引は作った本人に一番役立つもので、それ以上のものでない、というのが私の結論である。(中略) 索引を公刊すると、紹介に困るものだから、いつも「学界を裨益すること大である」という常套句が使われる。私のこの索引は学界を裨益などせず、むしろスポイルするものというべきであろう。要は、本当に役立ててもらえる人たち、簡単に言えば、少なくとも上記書物を通読されたかたになら、多少は役に立つかと思える程度である。

これは梅原郁所長の『清朝考証学著書索引』(私家版 2005年)にみる序文、「この索引の縁起」の一節を抜粋したものである。ここで取り挙げたのは、筆者の労苦を認めてもらおうという銜気を戒めるためであるが、一方で索引やデータベースを便利な道具として使用する危うさに対し、端的に警鐘されていると思ったからである。出来上がった索引やデータベースの事項は、作成者の問題意識というフィルターを通して選択されたものであり、あくまでもそれは表層に浮かび上がった一部に過ぎない。さらに表記方法や配列の問題、入力ミスなども含めると、誰が作っても同じものになることはなく、最終的には作成者の問題意識とその誠実さにどこまで信頼を寄せられるか、ということ成り立っている。使用者がそれを役立てようとしても、研究に対して誠実であるほど、そもそもその索引やデータベースが十全であるのかどうかを確認する必要が生じ、自身でも同じ道を辿らざるを得なくなる。矛盾しているようであるが、それならば一から自分で作成した方が早い、という結論に到るであろう。

パソコンの検索に頼った手っ取り早い業績作りではなく、一見して無駄と思われたり、迂遠な方法であっても、基礎としてやるべきことは地面を這いつくばってでもやらなければならない、という叱咤激励を受け、前号に掲載した「江戸中期の漢詩文にみる画人関係資料—事項一覧編—」を作成した。けれども結局はそれも自身の勉強以上のものではなく、さらに蛇足としての「補遺」にどれだけの意味があるかとも思ったが、ありがたくも数人の先生から、若いときに同じようなことを志したが果たせず、誰かが行うべきであったという趣旨のお言葉をいただいた。そこで多少の意味はあると信じ、残滓に過ぎないものではあるが、継続して調査した部分を掲載することにした。

今回の一覧表作成に関しては、前回で行った時代区分に該当する漢詩文集のうち、目を通すことができなかったものをできる限りピックアップし、所蔵先を絞って調査するという方法をとった。時代区分とは、漢詩文集の著者を生没年で限定したもので、上限は、江戸中期以降に多大な思想的影響を及ぼした荻生徂徠(1666~1728)の生年、下限は、江戸後期の寛政年間(1789~1801)にはすでに30代であることを条件とし、1760年以前に生まれた人物とした。版本資料だけでなく写本資料もいくつか加え、最終的に著者48人、著作55件を取り上げることとなった。「補遺」という性格上、あまり知られていない漢詩人の著作が

多くを占め、調査をしても取り上げるべき画人の記述が見られなかった詩文集も多々あったことから、これらについては本文の末尾に著者と書名を掲げている。さらに前回同様に抽出した画人のうち、日本人101人、中国人16人を五十音順に配列し、一覧表と対応する番号を付して検索できる「画人索引」を加えた。

なお、一覧表の記載事項に関する凡例は以下の通りである。

- ・調査した漢詩文集の著者を五十音順にして配列し、最後に僧侶を配して掲示した。
- ・漢詩文集の著者のうち、漢学者にはカタカナ1字、僧侶には「釈」の1字をあて、アルファベットの小文字を割り振って検索番号とし、名前の最初に付した。詩文の番号と組み合わせて「画人索引」で検索できるようにした。
- ・資料名の後に調査を行った所蔵先を記したが、版が薄く読めない文字がある場合や、落丁があった資料に関しては、別の所蔵先が有する資料で補った。
- ・一覧表は、左から「著者ごとの詩文番号」、「詩文集の巻数」、「訓読文」、「原文」、「画人」の順に掲載した。
- ・「訓読文」、「原文」に示した〔 〕はその題に付された割注、〔 〕は詩文の本文に付された割注をあらわす。
- ・「訓読文」は、理解しやすいことを第一に考え、詩文集に記載される返り点や送り仮名には必ずしもよらなかった。また、漢字をひらがなに改めた部分もある。( )は筆者による注釈で、特定できる画人の通用名や年号などを記した。年号については、題や本文中に干支がある場合、もしくは詩文の配列から明らかな場合にのみ限って付した。
- ・「画人」のうち、( )を付したものは、その題には名が認められないものの、詩文の本文に記されるか、他の詩文内容から明らかとなる人物である。
- ・「画人」のうち、ゴシック体によって表記したものは、「画人索引」に対応した人物、明朝体によって表記したものは人物の特定ができず、「画人索引」に対応していない人物をあらわす。

## 事項一覧表

### アa・浅井因南【1706～82】

(京都の人。代々、医を業とした家系に生まれた。宝暦3年、父・東軒の死によってその職であった尾張藩医を継いだ。)

『篤敬齋文稿』自筆写本・安永七年(1778)自序(国立国会図書館本)			
1	卷一	墨竹源流の弁。(寛保元年)	墨竹源流弁 (両論)
2		墨竹雅俗の弁。(寛保元年)	墨竹雅俗弁 (四論)
3		望月玉蟾(望月玉蟾)の墨梅詩に題する序。(寛保2年)	題望月玉蟾墨梅詩序 望月玉蟾
4		新刻竹譜の序。(宝暦元年)	新刻竹譜序 (彭城百川)
5		御医李蹊先生(山科李蹊)の墓誌銘。	御医李蹊先生墓誌銘 山科李蹊
6		筠圃生(宮崎筠圃)に与うる書。	与筠圃生書 宮崎筠圃
7		蘭竹巻の跋。	蘭竹巻跋 (白画)
8	二	宮筠圃(宮崎筠圃)に与うる書。(宝暦10年)	与宮筠圃書 宮崎筠圃 (御園中渠)
9		緑筠亭の記。(宝暦10年)	緑筠亭記 (白画)
10		趙松雪(趙孟頫)画ける馬長巻の跋。(宝暦10年)	趙松雪画馬長巻跋 趙孟頫
11		竹巻の後に題す。(宝暦12年)	題竹巻後 (白画)
12		墨梅巻の後に題す。(宝暦12年)	題墨梅巻後 (劉世儒)
13	三	墨蘭の跋。	墨蘭跋 (玉晚梵芳)
14		墨竹巻の序。	墨竹巻序 (白画) (望月玉蟾)
15		書画展玩の序。	書画展玩序 (両論)
16	四	甲戌(宝暦4年)の春、京師の親友に復する書。	甲戌春復京師親友書 (白画)
17		墨竹は画にあらざる説。	墨竹非画説 (陳淳) (彭城百川) (瀬源)
18		江山清楽の後に題す。	題江山清楽後 (丹羽嘉言)
19		磯貝覚生(磯谷滄洲)に贈る書[正卿、字は子相、滄洲と号す]。	贈磯貝覚生書[正卿字子相号滄洲] (丹羽嘉言)
20		墨蘭帖の後に題す。(安永9年)	題墨蘭帖後 (稲富繁城)
21		東園隠士(内藤東市)の尚歯会の序。(安永10年)	東園隠士尚歯会序 内藤東市
22		画桜の後に題す。	題画桜後 (三熊花顔)
23		蔬果互列の後に題す。	題蔬果互列後 (丹羽嘉言)
24		人に代わりて画の上に題す。	代人題画上 (李衍)
25		海門の指画の賛。	海門指画賛 海門
26		竹巻の後に題す。	題竹巻後 (白画) (山科李蹊)

### アb・井坂松石【1745～1819】

(阿波板野の人。大阪の両替商・井坂広充の養子となって家業を継いだ。片山北海に入門して混沌社社に参加した。)

『松石遺稿』文政九年(1826)序(大阪府立中之島図書館本)			
1		西孟清(西村孟清)、蔵する所の池貸成(池大雅)洞庭湖画巻を観る歌。	觀西孟清所蔵池貸成洞庭湖画巻歌 池大雅
2		中秋の無月、岡君章(岡田南山)の宅にて飲す。	中秋無月飲岡君章宅 岡田南山
3		中秋、葛(葛子琴)、岡(岡田南山)の二子を懐う。	中秋懷葛岡二子 岡田南山
4		片北海先生(片山北海)の席上にて、嵐子勉(五十嵐元誠)、越後に還るを送る。	片北海先生席上送嵐子勉還越後 五十嵐元誠
5		岡君章(岡田南山)に寄す。	寄岡君章 岡田南山
6		亡友・瑞庵の画竹を観る。	觀亡友瑞庵画竹 瑞庵

### アc・石山瀧洲【生没年未詳(18世紀後半)】

(近江愛知の人。種村箕山に学び、上京して医を業とする。天明8年の大火で家財を焼かれ、摂津河内間に遊んだのち、石山氏の根拠・近江八幡に帰る。)

『瀧東詩文抄』文政十年(1827)刊(大阪府立中之島図書館本)			
1	詩抄	玉応上人の詩画を観る。	觀玉応上人詩画 玉翁か
2		松窠道人(中江松窠)を送る。[一号五適という。]	送松窠道人[一号五適] 中江松窠

### アd・伊藤冠峯【伊吉甫、生没年未詳(18世紀後半)】

(伊勢山田の人。南宮大湫、細井平洲とともに中西淡淵に漢学を学んだ。官には仕えず、美濃等松に隠棲して医を業とした。)

『緑竹園詩集』天明二年(1782)刊(西尾市岩瀬文庫本)			
1	卷三	遙かに佚山師の七十を賀す。[佚山、画及び古篆を善くす。時に浪華正法寺に在り。]	遙賀佚山師七十[佚山善画及古篆時在浪華正法寺] 佚山
2		中秋の無月、鈴太夫の別荘にて、木蘭阜(木下蘭阜)、千蛾湖(千村鷺湖)と同じく分韻す。	中秋無月鈴太夫別荘同木蘭阜千蛾湖分韻 千村鷺湖
3	四	浅井因南国手、墨竹を恵せらる。これに賦して謝し奉る。	浅井因南国手見恵墨竹賦之奉謝 浅井因南
4		画に題す、二首。寒葉齋(建部凌岱)の席上にて需めに応ず。	題画二首寒葉齋席上応需 建部凌岱
5	五	源伯民(清水伯民)の閑居を訪う。	訪源伯民閑居 清水伯民
6		藤范古(勝野范古)の東遊を送る。[生、画を善くす。]	送藤范古東遊[生善画] 勝野范古
7		春日、蛾湖翁(千村鷺湖)を訪うも遇わず。題を留む。	春日訪蛾湖翁不遇留題 千村鷺湖
8		秋日、津田北海翁に陪して松樹山に遊ぶ。	秋日陪津田北海翁遊松樹山 津田北海

**アe・岩垣龍溪【巖孟厚、巖亮卿、1741～1808】**

(京都の人。宮崎筠圃や皆川淇園に学び、博士家の清原氏に入門して古注学を修めた。私塾・松蘿館を開いて門弟を教授した。)

『松蘿館文抄』写本(国立国会図書館本)			
1		韓大年(韓天寿)の墨本に題す。	題韓大年墨本 韓天寿
2		端文伸(端春莊)の「春莊の図」の詠後に題す。	題端文伸春莊図詠後 (岩溪嵩台)
3		宮先生(宮崎筠圃)の墨跡の後に題す。	題宮先生墨跡後 (宮崎筠圃)
4		仇実父(仇英)の「玄都觀の図」に跋す。	跋仇実父玄都觀図 仇英
5		大雅道人(池大雅)の「四愛の図」の跋。	大雅道人四愛図跋 池大雅
6		巖嵩台(岩溪嵩台)教授に与う。	与巖嵩台教授 岩溪嵩台

**アフ・宇野醴泉【字元章、1722～79】**

(近江守山の人。若い頃より学問を好み、特に趙孟頫風の書をよくした。青蓮院門跡尊真法親王や膳所藩主の本多侯から上客として尊ばれた。)

『醴泉先生詩文鈔』文化十一年(1814)刊(国文学研究資料館本)			
1	卷上	鶴探鯨(鶴沢探鯨)の画鶴屏風。	鶴探鯨画鶴屏風 鶴沢探鯨
2		旭庵法師(玉翁)、三論玄義を洛の禪林寺に講ずるを聞く。詩以て随喜を表わす。	聞旭庵法師講三論玄義於洛禪林寺詩以表随喜 玉翁
3		秋日、中原淑伯、僧玉濤と同じく水釜園に遊ぶ。西元礼もまた与かる。この夜、元礼宅に宿す。よりにてこれを賦す。	秋日同中原淑伯僧玉濤遊水釜園西元礼亦与焉此夜宿元礼宅因賦之 玉濤
4		玉濤師と同じく益水に遊ぶ。この日、師、景を写しかつ笛を吹く。	同玉濤師遊益水此日師写景且吹笛 玉濤
5	下	正達師(玉濤)の韻に和す。	和正達師韻 玉濤
6		富田某の画ける「獼猴、柳陰に就きて野馬を馭する図」に題す。	題富田某画獼猴就柳陰馭野馬図 富田某
7		春日、門生数子を携え、宮筠圃(宮崎筠圃)に陪し、洛の東郊に遊ぶ。六首	春日携門生数子陪宮筠圃遊洛東郊六首 宮崎筠圃
8		巖嵩台(岩溪嵩台)、画竹及び佳詩を恵まる。韻に和してこれを謝す。	巖嵩台恵画竹及佳詩和韻謝之 岩溪嵩台

**アg・大江藍田【江伯祺、1757～88】**

(京都の人。漢学者・大江玄圃の男。江戸に赴く途中に病に罹り、江戸到着後、二日にして没した。)

『藍田遺稿』寛政四年(1792)刊(国立国会図書館本)			
1		長嶋侯(増山雪斎)の独楽園に寄題す。	寄題長嶋侯独楽園 増山雪斎

**アh・小栗鶴巢【1707～66】**

(若狭小浜の人。上京して柳川滄洲に学ぶ。郷里で私塾を開き小浜藩儒になったとも伝える。娘の雪蓬は画家、孫の常山、十洲は儒者として知られる。)

『鶴巢先生遺稿』安永七年(1778)刊(国立公文書館内閣文庫本)			
1	卷中	張州の千諸成(千村鷺湖)に寄贈す。	寄贈張州千諸成 千村鷺湖

**アイ・尾芝静所【生没年未詳、18世紀後半】**

(播磨北条の人。上京して岩垣龍溪に漢学を学んだ。3年ほど大和摂津間に遊んだが、寛政12年には大和小泉藩に賓師として招かれている。)

『静所詩鈔』享和元年(1801)序跋(東京都立中央図書館加賀文庫本、巻五～六のみ)			
1	卷五	小栗金壺(小栗十洲)画ける「石間晩菊の図」に題す。	題小栗金壺石間晩菊図 小栗十洲
2		高子安の画山水に題す。	題高子安画山水 高子安
3	六	高釣雪の「画山水の図」に題す。	題高釣雪画山水図 高釣雪
4		平松叔の掃郷を送る。[君、画を能くす。故に及ぶ。]	送平松叔掃郷[君能画故及] 平松叔

**カa・櫻田北岸【1757～94】**

(加賀の人。大聖寺藩の儒医・東巖の男で、実弟は太田錦城。徂徠学から折衷学に転じた。)

『旗山集』天保三年(1832)刊(早稲田大学図書館本)			
1	卷三	小松の梁子琴、しばしば書もて招かる。先にこれを賦し寄せ奉り、兼ねて梁苑画士に呈す。	小松梁子琴数書見招先賦此奉寄呈梁苑画士 梁苑
2	附録卷二	松窠道人(中江松窠)に贈る。	贈松窠道人 中江松窠
3		冬夜、杜道人(中江松窠)の寓舎を訪う。[杜はもと京師の人なり。他郷に流落すること三十余年、今まさに京に還らんとす。]	冬夜訪杜道人寓舎[杜原京師人流落他郷三十余年今將還京] 中江松窠
4		子実(草鹿玄泰)の「杜道人(中江松窠)、画を成すを觀る韻」に次ぐ。	次子実觀杜道人成画韻 中江松窠
5		杜道人(中江松窠)の『環春余稿』を読み、賦して子実(草鹿玄泰)に寄す。	讀杜道人環春余稿賦寄子実 中江松窠
6		雨中、杜道人(中江松窠)に寄す。	雨中寄杜道人 中江松窠
7		杜道人(中江松窠)の「留別の韻」に次ぎ、その西掃を送る。	次杜道人留別韻送其西掃 中江松窠

**カb・片山鳳翽【1740～1808】**

(周防吉敷の人。領主・毛利氏の儒臣であった田中蘆城から徂徠学を学ぶ。天明7年、清未藩主毛利匡邦に聘せられ、藩校・育英館創設時の学頭となる。)

『鳳翽集』文化八年(1811)刊(国立国会図書館本)			
1	卷一	江白のために江雲(岩井江雲)の画蘭譜の後に題する歌。	為江白題江雲画蘭譜後歌 岩井江雲
2	二	臥遊亭(山県鶴江)に過る。	過臥遊亭 山県鶴江
3	五	子祭(山県鶴江)に次詣す。三日、過訪して贈らる。	次詣子祭三日過訪見贈 山県鶴江
4		巖江雲(岩井江雲)の僑居を訪う。	訪巖江雲僑居 岩井江雲
5		南阜の扇、子祭(山県鶴江)の画あり。需めに応じてこれに題す。	南阜之扇子祭之画應需題此 山県鶴江
6	六	妙寿寺の庭上泉石、僧雪舟築所なり。雪舟かつて入明して湖州に至り、その風勝を写す。すなわちこの庭もまたこれを暗摸するなり。一日、人と共にこれに同遊す。	妙寿寺庭上泉石僧雪舟所築雪舟昔人明至湖州写其風勝、即此庭亦暗摸此也、一日同人同遊之 雪舟
7		県子祭(山県鶴江)、徒駕南遊するに贈る。	贈県子祭徒駕南遊 山県鶴江
8	十	梅溪画譜の後に題す。	題梅溪画譜後 鶴木梅溪(岩井江雲)
9	十二	縣子祭(山県鶴江)に与う。	与縣子祭 山県鶴江

カc・鎌田柳泓【1754～1821】

(紀伊湯浅の人。幼少の時、母方の伯父であった医者鎌田一窓の養子となる。養父と富岡直に石門心学を、江村北海から経学を学んだ。)

『柳泓先生詩文鈔』文政五年(1822)刊(大阪府立中之島図書館本)			
1	卷上	徽宗皇帝の「白鷹の図」に題す。	題徽宗皇帝白鷹図 徽宗

カd・川井立牧【橘子和、1708～66】

(大坂の人。京都で医を業とする。五井蘭洲に儒学を、梁田悦巖に詩を学び、一方で有賀長伯から和歌の手ほどきを受けた。)

『大橋集』寛政十二年(1800)刊(東京都立中央図書館加賀文庫本)			
1		丹青の歌。若冲山人(伊藤若冲)に寄す。	丹青歌寄若冲山人 伊藤若冲

カe・城戸月庵【公賢、1744～99】

(大和郡山藩領・伊勢四日市の判官の家に生まれる。同藩京都藩邸の吏司となり、江村北海や龍草廬と交わった。のち藩儒となり、侍読を勤めた。)

『東帰稿副』享和三年(1803)跋(国文学研究資料館本)			
1		政常の宅にて、九霞山人(池大雅)画ける「王衍清談の図」に題す。	政常宅題九霞山人画王衍清談図 池大雅

カf・木村桂庵【生没年未詳(18世紀後半)】

(京都の人。寛政年間に『忠経精解』、『観音経国字解』を刊行している以外はほとんど事績不明である。)

『桂庵詩集』寛政二年(1790)刊(国文学研究資料館本)			
1		予の家、蔵する所の屏風に題す。君啓(市川君圭)、極彩色の「飲中八仙の図」を画く。	題予家所蔵之屏風君啓画極彩色飲中八仙之図 市川君圭
2		池無名(池大雅)画く所の「山水の図」に題す。	題池無名所画之山水図 池大雅
3		君啓(市川君圭)画く所の「山水の図」に題す。	題君啓所画之山水図 市川君圭
4		飛泉楼の飲床に瀑布一軸、また衛立に市君啓(市川君圭)、「睡李白の像」を画けるあり。	飛泉楼飲床有瀑布一軸復衛立市君啓画睡李白像 市川君圭
5		田成斐、金桃餅を恵まる。	田成斐恵金桃餅 田成斐
6		市君啓(市川君圭)画ける「美人の図」に讀す。	讀市君啓画美人図 市川君圭
7		田成斐画ける「遊仙の図」に讀す。	讀田成斐画遊仙之図 田成斐

カg・五味釜川【伯耳、1718～54】

(甲斐中巨摩の人。江戸で太宰春台に学ぶ。郷里で医を業とするかたわら、家塾を開いて漢学を教授した。)

『釜川遺稿』寛政七年(1795)序跋(『甲斐志料集成十一 史伝・文芸』[甲斐志料集成刊行会 1934年]所収)			
1		英一蝶の「洗馬の図」に題する歌。	題英一蝶洗馬図歌 英一蝶

カh・近藤峨眉【国宝、1744～1801頃】

(京都嵯峨の人。市井で漢学を教授する一方、趙孟頫風の書をよくし、書家としても知られた。播磨小野藩、のち越後稚谷藩に儒者として仕えた。)

『峨眉山人詩集』寛政六年(1794)刊(国立国会図書館本)			
1	卷五	福祿寿の画賛。[画工・玉湖(大塚玉湖)の需めに応ず。]	福祿寿画賛[応画工玉湖需] 大塚玉湖
2		桃仙の字の説。	桃仙字説 桃仙(渡辺玄対)

サa・嵯峨朝来【1743～1819】

(肥後の人。熊本藩儒学者・高本紫溟に従学した。仕官を好まず、朝来山の麓に隠棲し、子弟に教授して過ごした。)

『朝来先生遺稿』天保六年(1835)序跋(国立国会図書館本)			
1	卷一	千嶂堂(矢野良勝)の画妙に題す。七首	題千嶂堂画妙七首 矢野良勝
2		壬戌(享和2年)九月二十三夜、夢に千嶂堂(矢野良勝)画ける「洞口の花下に鹿眠る」の筆妙を見る。夢中に句を得て曰く、「洞口に鹿眠りて美花深し」と。覚めて後、忘ることあわたず。十四句と作してその事を記す。	壬戌九月二十三夜夢見千嶂堂画洞口花下鹿眠筆妙夢中得句曰洞口鹿眠美花深覚後不能忘作十四句記其事 矢野良勝
3		千嶂堂(矢野良勝)の門人、その「梅月の図」を借りて到る。余これを聞くに、妙絶謂い難し。率意、一律を賦して千嶂堂に寄せて以てこれを乞う。	千嶂堂門人借其梅月図到余聞之妙絶難謂率意賦一律寄千嶂堂以乞之 矢野良勝
4		豪潮律師、高韻並びに「天台山の図」を恵まるに謝す。五首	謝豪潮律師見惠高韻並天台山図五首 豪潮
5	二	山内氏(山内俊度)画ける「泉石の図」に題す。	題山内氏画泉石図 山内俊度
6		同じく(山内氏画ける)「梅月の図」に題す。	同題梅月図 山内俊度
7		同じく(山内氏画ける)「東坡の図」に題す。	同題東坡図 山内俊度

サb・坂本天山【源伯寿、1745～1803】

(信濃高遠の人。同藩士の父から伝受した荻野流砲術に独創を加え、その技術と論を各地に広めた。江戸で大内熊耳と宇佐美澗水に漢学を学んだ。)

『会心亭詩集』天明四～五年(1784～5)詠(『天山全集』[信濃毎日新聞社 1936年]所収)			
1	卷一	大雅道人(池大雅)の画に題す。	題大雅道人画 池大雅
2		遙かに讚陽文学・岡伯和(岡井赤城)の配孺人・葛氏の「対州大婦人に和し奉る春日遊望の作」を觀、その韻に次ぐ。	遥観讚陽文学岡伯和配孺人葛氏奉和对州大婦人春日遊望之作次其韻 岡井赤城
3	二	虚庵道人(天龍道人)の停雲楼を訪うも、遇わず。	訪虚庵道人停雲楼不遇 天龍道人
4		また虚庵道人(天龍道人)を訪うも遇わず。たまたま象山に在りし者応接し、贈るに道人の画を以てす。ために賦謝す。	又訪虚庵道人不遇偶在象山者应接贈以道人画為賦謝 天龍道人
『天山先生詩稿』(同上)			
5		六十六齡狩野守興(竹内守興)画く所の福祿寿に題す。	題六十六齡狩野守興所画福祿寿 竹内守興
6		錦水道人(天龍道人)画く所の蒲桃に題す。	題錦水道人所画蒲桃 天龍道人
『天山先生詩集』(同上)			
7		王公瑜(天龍道人)画く所の芭蕉に題す。	題王公瑜所画芭蕉 天龍道人
8		王公瑜(天龍道人)の寄せらるるに和答す。	和答王公瑜見寄 天龍道人



『天山先生文集』(同上)				
9		余、琴岡に浮遊して留連すること数日、偶坐し、たまたま清主の唐寅画鍾馗に題する御製の詩を誦す。主人云えらく、「吾が家もまた一楨を蔵す。子、願わくはその詩を題せよ」と。余曰く、「尊貴の詩にして尊を析くこと肯んずべからず。ただ瑞韻を假るのみ」と。すなわち題して曰く。	余浮遊琴岡留連數日偶坐適誦清主題唐寅画鍾馗御製之詩主人云吾家亦藏一楨子願題其詩余曰尊貴之詩析尊不可肯特假瑞韻耳即題曰	唐寅
10		田氏の少女(上田琴風)、雑画の賛。[田氏は周防州台道の人なり。]	田氏少女雜画賛[田氏周防州台道人]	上田琴風
11		虚庵道人(天龍道人)の笏銘。	虚庵道人笏銘	天龍道人
12		「駒嶽の図」に題す。	題駒嶽図	(自画)
13		「鶉の画」に題す。	題鶉画	(吉休真)
『天山詩集二編』寛政九年~享和三年(1797~1803)詠(同上)				
14	卷二	王公瑜(天龍道人)の画葡萄に題す。(寛政12年)	題王公瑜画葡萄	天龍道人
15		海景上人に伴い、菅廟祝官の家に宿す。明日、掃途の便道にて時子羽(十時梅屋)を訪う。(寛政12年)	伴海景上人宿菅廟祝官家明日掃途便道訪時子羽	十時梅屋
16		明の唐寅画ける「蠶農の図」を觀る引。(寛政12年)	觀明唐寅画蠶農図引	唐寅
17		台道席上にて、「梅花の図」に題す。家人に与うる書に代ゆ。(享和元~2年)	台道席上題梅花図代与家人書	(上田琴風)
18		鉅鹿魏氏蔵する所の古書画を觀る歌。(享和元~2年)	觀鉅鹿魏氏所蔵古書画歌	(鉅鹿民部)
19		鉅鹿魏仲君を哭す。仲君、名は道流。その王父・鉅鹿魏氏はもと明革命の時、帰化する人なり。世々、明樂を伝う。君の律におけるや、神解あり。かつて余に大清樂律の差を告ぐ。その精詳、実に歎服するものあり。壬戌(享和2年)の仲冬、余しばらく平戸に之き、癸亥(享和3年)の閏月、崎陽に歸す。即夕、詠を聞く。故にこの作あり。情を辭に見わす。	哭鉅鹿魏仲君 仲君名道流其王父鉅鹿魏氏故明革命之時歸化之人世世伝明樂君於律有神解曾告余大清樂律之差其精詳美有歎服者矣壬戌之仲冬余暫之平戸癸亥閏月歸崎陽即夕聞詠故有此作情見于辭矣	(鉅鹿民部)
20	三	浦上君輔(浦上玉堂)を訪うも、遇わず。[在京の作。君輔、琴を善くし、最も催馬楽に長ず。](寛政10年)	訪浦上君輔不遇[在京作君輔善琴最長催馬楽]	浦上玉堂
21		皆川伯恭(皆川淇園)、西湖の水を瓊浦の商舶に得、画工・岸雅楽(岸駒)をして「孤山梅樹」を画かしむ。彦城の林義兒、得て以て自珍とし、余に題詩を乞う。韻に新字を得たり。(寛政10年)	皆川伯恭得西湖水於瓊浦商舶使画工岸雅楽画孤山梅樹彦城林義兒得以自珍焉乞余題詩韻得新字	岸駒
22		二百十五(舟行の雑詩「浪華より長州に赴く途中の作」)。(鉅鹿魏君の家に宿す。)(寛政12年)	二百十五[宿鉅鹿魏君家]	(鉅鹿民部)
23	四	冬日、木世肅(木村兼葭堂)に過り、谷文晁画ける「兼葭堂の図」を觀る。錢塘の劉雲台の韻を用ゆ。(寛政10年)	冬日過木世肅觀谷文晁画兼葭堂図用錢塘劉雲台韻	谷文晁
24		能美玄順君宅の宴集にて、「松鶴の図」を觀る。云えらく、「これその先君の時、有栖川親王、その大人に賜い、以て七十を寿する所の物なり。画はすなわち錦小路頼尚公の写す所にして、有栖川親王及び鷹司左大将(鷹司政熙)、題して国風を讀すと云う。けだし家世の寶物なり」と。鄙詩を需めらる。率爾として賦して以て貢を塞ぐ。(寛政12年)	能美玄順君宅宴集觀松鶴図云是其先君之時有栖川親王所賜於其大人以寿七十物也画則錦小路頼尚公所写而有栖川親王及鷹司左大将為題詠国風云蓋家世之寶物也見需鄙詩率爾賦以塞貢	錦小路頼尚
25	五	初冬、時子羽(十時梅屋)を訪う。子羽、七月長島に之き、釈してその郷校を采す。事竣りて張都に入り、留ること数日、掃路の便道にて京に入り、諸彦と會す。筆上諸公に謁して詩画を出示す。また本坊南街に移居す。話言の際、筆を援けて即事を紀す。(寛政12年)	初冬訪時子羽子羽七月之長島釈采其郷校事竣入張都留數日掃路便道入京与諸彦會謁筆上諸公出示詩画亦移居本坊南街話言之際援筆紀即事	十時梅屋
26		崎陽に在りて、館主人の曝書を觀る。その中に張城尚齒會の図卷なるものあり。披いて閱すれば、すなわち亡友・市川子人(市川鶴鳴)の旧題詩を載す。子人躬ら祿さずしてその寿卷に題するものを觀、感に堪えず。韻を歩す。(享和元年)	在崎陽觀館主人曝書其中有張城尚齒會図卷者披而閱則載亡友市川子人旧題詩子人躬不祿而觀其題壽卷者不堪感步韻	(内藤東甫)
27	六	台道田氏の少女(上田琴風)の画に題す。四首(寛政12年)	題台道田氏少女画四首	上田琴風
28	七	西湖水を以て画ける孤山梅に題す。高華卿の需めに応ず。(寛政12年)	題以西湖水画孤山梅応高華卿需	(岸駒)
29		八十一翁王公瑜(天龍道人)の葡萄の画に題す。(寛政12年)	題八十一翁王公瑜葡萄画	天龍道人
30		時子羽(十時梅屋)の瓊浦紀行に題す。(寛政12年)	題時子羽瓊浦紀行	十時梅屋
31		同宗坂君のために蘭齋森氏画ける露竹に題す。君、かつて画をこの人に学ぶ。児鉦齋至る、故にこれに及べり。(寛政12年)	為同宗坂君題蘭齋森氏画露竹、君嘗学画於斯人児鉦齋至故及之	森蘭齋
32		南部伯民を携え、鞠浦に吟行す。まさに雨ふらんとするに□義方宅に過りてこれを避く。主人、玉溝画く所の風竹を出し、以て題詩を需む。率爾として筆を走らせ、以てこれに應う。(寛政12年)	携南部伯民吟行鞠浦將雨過□義方宅避之主人出玉溝所画風竹以需題詩率爾走筆以應之	玉溝
33		白翁の富士山の図に題す。白翁は官市の人なり。勸孝亭と号す。(享和元年)	題白翁富士山図白翁官市人也号勸孝亭	勸孝亭白翁
34		赤閑の伊藤氏蔵する所、明の祝、唐、董、三家の真蹟に題す。…右は祝允明 …右は唐寅 …右は董其昌(享和元年)	題赤閑伊藤氏所蔵明祝唐董三家真蹟 右祝允明 右唐寅 右董其昌	祝允明 唐寅 董其昌
35		大郎の屈子園に集す。席上、よりて藤伯和(岡井赤城)を懷う。(享和元年)	集大郎屈子園席上因懷藤伯和	岡井赤城
36		湯田旅館主人、書画を贈らるるに謝す。…右は亀井道齋(亀井南冥)の墨蹟 …右は無隠禪師画ける遠塵の図(享和元年)	謝湯田旅館主人贈書画 右亀井道齋墨蹟 右無隠禪師画遠塵図	無隠
37		台道田氏の席上にて、画竹に題し、信州の人、郷に歸するを送る。兼て家信に附す。(享和元年)	台道田氏席上題画竹送信州人歸郷兼附家信云	(上田琴風)
『浮遊詩草』(同上)				
38		王公瑜(天龍道人)に贈る。	贈王公瑜	天龍道人

サc・佐々木龍原【国逸平、1750~1800】

(周防鹿野の人。本姓は国重。萩藩校・明倫館に入学し、小倉鹿門から儒学を学ぶ。のち都講、講師を務めた。)

『龍原先生文集』文化元年(1804)刊(国立国会図書館本)				
1	卷一	梶子祭(山県鶴江)、臥遊亭の歌を作り、南溟先生(山根南溟)に贈る。その韻に歩し却寄す。	梶子祭作臥遊亭歌贈南溟先生步其韻却寄	山県鶴江
2		梶子祭(山県鶴江)、余のために書画を写すに謝す。	謝梶子祭為余写書画	山県鶴江
3	二	春日、祭(繁沢豊城)、山(山根南溟)両祭酒及び諸君と同じく、粟屋太夫の桜山別荘に遊ぶ。祭酒山君の韻に次ぐ。	春日同祭山両祭酒及諸君遊粟屋太夫桜山別荘次祭酒山君韻	繁沢豊城
4	三	夏日、朗月亭の集。梶子祭(山県鶴江)に次韻す。	夏日朗月亭集次韻梶子祭	山県鶴江

5	四	豊城先生(繁沢豊城)、東部に祇役するを送る序。	送豊城先生祇役于東都序	繁沢豊城
6	五	明の陸叔平(陸治)「花鳥図」の後に題す。	題明陸叔平花鳥図後	陸治
7		縮住(佐々木縮住)画ける張良に題す。	題縮住画張良	佐々木縮住
8		雪舟の「山水の図」に跋す。	跋雪舟山水図	雪舟
9		海北君蔵せる「周長五勝の図」に題す。(寛政9年)	題海北君蔵周長五勝図	(雲谷等村)
10		豊城先生(繁沢豊城)に贈る。	贈豊城先生	繁沢豊城
11		豊城先生(繁沢豊城)に与う。	与豊城先生	繁沢豊城

サd・清水雷首【1755~1836】

(尾張鳴海の人。同族の叔父・下郷学海や市川鶴鳴に学び、江戸に出て細井平洲や柴野栗山に師事する。伊勢神戸藩に仕えたが、放言により追われた。)

『蜚煙焦余集』文政六年(1823)刊(国立公文書館内閣文庫本)				
1	卷上	明堂大和尚の「夏菊の画」に題す。(文化13年)	題明堂大和尚夏菊画	明堂宗宣
2		九日、中村永万、中林竹洞、大倉国宝(大倉笠山)と同じく、靈山阿最高の處に登る。三子、これを図し、その上に題詩す。(文化13年)	九日同中村永萬中林竹洞大倉国宝登靈山阿最高之處三子図之題詩其上	中林竹洞 大倉笠山
3		大窪天民(大窪詩仏)、杉岡純吟(杉岡歌桑)、琴春樵(梅辻春樵)と同じく楽志堂に赴く。席上、柳洪園(柳沢洪園)の「花籃の図」を詠ず。(文政元年)	同大窪天民杉岡純吟琴春樵赴樂志堂席上詠柳洪園花籃図	柳沢洪園
4		僧祖海の墨梅。(文政2年)	僧祖海墨梅	祖海
5	下	同前(小至の夜)、小倉黄門公(小倉豊季)の画に題す。	同前題小倉黄門公画	小倉豊季
6		丹邱(三井丹丘)の画山水に題す。	題丹邱画山水	三井丹丘

サe・志村五城【志士輔、1746~1832】

(陸奥江刺の人。岩谷堂邑主・伊達右近の近臣で、江戸昌平塾に学んだ。本藩・仙台藩の大番士に抜擢され、諸職を歴任した。)

『五城詩集』(志村健雄編『三珠樹集』[1911年]所収)				
1		玉堂琴士(浦上玉堂)に贈る。	贈玉堂琴士	浦上玉堂
2		艸堂の集、南山(古梁紹岷)、青丘二禪師を待つも至らず。たまたま芙蓉山人(鈴木芙蓉)、藤子瑛(遠藤崑山)、坐に在り。いささか賦して情を遣す。[芙蓉山人は画を善くし、藤子瑛は詩を善くす。]	艸堂集待南山青丘二禪師不至偶芙蓉山人藤子瑛在坐聊賦遣情[芙蓉山人善画藤子瑛善詩]	鈴木芙蓉
3		秋水詞伯(長尾秋水)、湘潭佳什及び墨竹を恵まるるに謝答す。	謝答秋水詞伯見思湘潭佳什及墨竹	長尾秋水
4		登登庵(武元登々庵)の「松嶋に遊ぶの作」に和す。[時に登登子、画工・寿山を携ゆ。]	和登登庵遊松嶋作[時登登子携画工寿山]	寿山
5		周郎画ける鷹を観る引。	觀周郎画鷹引	周郎
6		田子元、画く所の「松島の図」に題す。	題田子元所画松島図	田子元

サf・志村東嶼【志仲敬、1752~1802】

(陸奥江刺の人。五城の弟で、江戸昌平塾に学んで舎長となった。兄と同様、本藩・仙台藩の大番士に抜擢され、藩儒となった。)

『東嶼詩集』(志村健雄編『三珠樹集』[1911年]所収)				
1		武登登子(武元登々庵)の「画工・寿山と同じく松嶋に遊ぶの作」に和す。	和武登登子同画工寿山遊松嶋之作	寿山

サg・神保蘭室【子廉、1743~1826】

(出羽米沢の人。同藩医・薬科松柏に師事し、江戸にでて細井平洲に学んだ。藩主・上杉鷹山の学友として、藩校・興讓館の復興に尽力した。)

『宜雨堂詩集』文政五年(1822)刊(国文学研究資料館本)				
1	卷上	野州の平石万年画ける山水を獲、賦して贈る。	獲野州平石万年画山水賦贈	平石万年

サh・曾根原周庵【曾魯卿、鳥海山人、1749~1811】

(出羽酒田の人。大坂で片山北海の混沌詩社に参加し、頼春水などと交わった。のち江戸で桃井桃庵から医を学び、郷里で開業した。)

『鳳鳴館詩集』寛政三年(1791)刊(国文学研究資料館本)				
1	卷五	帰後、木文熙(鈴木芙蓉)に寄懐す。二首	帰後寄懷木文熙二首	鈴木芙蓉

タa・太宰春台【宰徳夫、1680~1747】

(信濃飯田の人。父の浪人に伴って江戸に出、荻生徂徠に学んだ。藺園七子のひとり。服部南郭の詩文、春台の経学として双璧をなした。)

『春台先生紫芝園前稿』宝暦二年(1752)刊(小島康敬編『近世儒家文集集成』第6巻[ベリかん社 1986年]所収)				
1	卷一	忍海師に別る。	別忍海師	忍海か
2	二	忍海上人を悼む。	悼忍海上人	忍海か
『春台先生紫芝園後稿』宝暦二年(1752)刊(同上)				
3	卷一	夏日、友と子玉に過飲し、百毫翁(張瑞園)の画を観る。	夏日与友過飲子玉觀百毫翁画	張瑞園
4		住江君微(住江滄浪)の寄せらるるに酬ゆ。	酬住江君微見寄	住江滄浪
5	二	金山師、清人・大鵬沙門の画竹を恵まる。	金山師惠清人大鵬沙門画竹	大鵬正鯤

タb・立原翠軒【原伯時、1744~1823】

(常陸水戸の人。同藩儒・谷田部東壑や、江戸で内熊耳、細井平洲に学んだ。彰考館総裁となり、衰退していた『大日本史』編纂に心血を注いだ。)

『此君堂詩集』写本(茨城県立歴史博物館本→国文学研究資料館のマイクロ資料による)				
1		宋紫石の画に題す。	題宋紫石画	宋紫石
2		月仙上人画ける牛の題詩の韻に和す。	和月仙上人画牛題詩之韻	月仙
3		寒江泛舟の図。[玄対(渡辺玄対)の画。]	寒江泛舟図[玄対画]	渡辺玄対
4		高士弹琴[以下十首は兼葭堂(木村兼葭堂)、題を大雅堂(池大雅)の画に求まる。]	高士弹琴[以下十首兼葭堂求題大雅堂画]	池大雅
5		費漢源の画に題す。	題費漢源画	費漢源
6		米山人(岡田米山人)の元祐研。	米山人元祐研	岡田米山人
7		玄対翁(渡辺玄対)の安楽斎。	玄対翁安楽斎	渡辺玄対

8		子馮草する所の「汴都の図」に題す。	題子馮所草汴都図	子馮
9		玉泉大場君画く所の「富士山の図」、末に絶句一首を係くるを觀る。僕、今夏京より帰路、吉原より登りてその巔を渉攀し、すでに实地を踏めり。また真図を觀、真詩を誦すれば、人をして飄々、凌雲の氣あらしむ。すなわち高韻二首を次ぎ奉る。聞くなく、羈府近侍の諸君、かつて画幅をもって覽に早し、特に賞愛を蒙り、画工に命じて臨摹せしめ、内に留むと。玉泉君の榮幸の名、富士山と同高なるもまた奇遇なり。	觀玉泉大場君所画富士山図末係絶句一首僕今夏自京帰路自吉原登渉攀其巔已踏实地又觀真圖誦真詩令人飄々有凌雲之氣乃奉次高韻二首聞羈府近侍諸君嘗以画幅呈覽特蒙賞愛命画工臨摹留于内玉泉君榮幸之名与富士山同高亦奇遇也	大場玉泉
10		黄檗諸僧の書画卷を觀、感あり。[鈴木岩次郎の為にす。]	觀黄檗諸僧書画卷有感[為鈴木岩次郎]	黄檗諸僧
11		九月十三夜、大場君(大場玉泉)の樓上にて月を見る。	九月十三夜大場君樓上看月	大場玉泉
12		紀伊崖南嶺の四時窓に寄題す。	寄題紀伊崖南嶺四時窓	崖南嶺
13		小赤壁石はこれ、栗山翁(柴野栗山)の遺物なり。月堂兄(田内月堂)これを得て秘玩す。つねに十月望をもつて詩酒をもて客を招く。今ここに茶山翁(菅茶山)江戸に在るをもつて、石を持って酒魚を携え、宴をその邸舎に設く。たまたま文晁兄(谷文晁)、鴻台壁の真景を写してこれを贈り、また命ずるに小赤壁を以てし、おのおのその上に題す。時に文化甲戌(文化11年)なり。	小赤壁石是栗山翁遺物月堂兄得之秘玩每以十月望詩酒招客今茲以茶山翁在江戸持石携酒魚設宴於其邸舎適文晁兄写鴻台壁真景贈之亦命以小赤壁各題其上時文化甲戌也	谷文晁
14		大場君(大場玉泉)、水戸に帰隱するを奉送す。	奉送大場君歸隱水戸	大場玉泉
15		己卯(文政2年)の清明、林麓堂の養老の宴。諸君と同じく賦す。	己卯清明林麓堂養老宴同諸君賦	(渡辺玄対)
『此君堂文集』写本(同上)				
16	卷一	檀齋石譜の序。(文化12年)	檀齋石譜序	(小泉檀山)
17	二	心越書画譜の跋。(天明7年)	心越書画譜跋	東阜心越
18		幽風図の跋。	幽風図跋	(谷文晁)
19		日光山祭儀の図に題す。(文化13年)	題日光山祭儀図	(大場玉泉)
20		赤穂義碑帖に題す。(文化13年)	題赤穂義碑帖	(大場玉泉)
21		介石隆(野呂介石)の山水画跋の跋。[紀州高島松陰の為にす。](文化14年)	介石隆山水画跋跋[為紀州高島松陰]	野呂介石 (野際蔡徵)
22		大雅堂(池大雅)の画帖に跋す。(文政元年)	題大雅堂画帖	池大雅
23		介石隆(野呂介石)の山水画帖の跋。	介石隆山水画帖跋	野呂介石
24	三	雲圃島崎翁の墓碑銘並びに序。	雲圃島崎翁墓碑銘并序	島崎雲圃 (高田敬輔) (小泉檀山) (神山琴甫) (中村応岱)
25		林長羽(林十江)の墓碑。	林長羽墓碑	林十江
26	四	応挙(門山応挙)の狗兒の贊。	応挙狗兒贊	門山応挙
27		月仙の「九老の図」に題す。[伊勢の人・幸田因幡の乞。]	題月仙九老図[伊勢人幸田因幡乞]	月仙
28		兼葭堂(木村兼葭堂)像の贊。(文化11年)	兼葭堂像贊	(谷文晁か)
29		文二章(谷文二)の山の画。	文二章山画	谷文二
30		磔画の記。(天明4年)	磔画記	(狩野典信)
31		兜鍪図巻の記。(寛政元年)	兜鍪図巻記	(大橋政業)
32		幽風図の記。(寛政3年)	幽風図記	(谷文晁)
33		十八尊者画軸の記。(寛政3年)	十八尊者画軸記	(東阜心越)
34		久米氏家藏の賜画及び白絹の記。(文化10年)	久米氏家藏賜画及白絹記	(狩野典信)
35		馬蹄研の記。(文化10年)	馬蹄研記	(大場玉泉)
36		玄賞齋の記。(文政2年)	玄賞齋記	(大場玉泉)

#### タc・丁野南洋【丁君美、1754~1802】

(土佐高知の人。江戸で荻生徂徠門の宇佐美瀧水に学び、のち京都で皆川淇園に師事した。晩年には比叡山の僧侶に経書を講じた。)

『鼓山房遺稿』文化元年(1804)序(東京都立中央図書館加賀文庫本)				
1	巻下	山日下(山本日下)、高陽(中山高陽)の墓碑を論ずるに復する書。	復山日下論高陽墓碑書	中山高陽
2		皆川先生(皆川淇園)に与う。	与皆川先生	(鳥文龍) (門山応挙)

#### タd・冢田大峯【1745~1832】

(信濃長野の人。その父・旭嶺に学び、独学して江戸麹町で家塾・雄風館を開いた。寛政異学の禁に異を唱えた急先鋒として知られる。)

『大峯詩集』寛政六年(1794)跋(国立国会図書館本)				
1	巻四	山水画の引。紀平洲(細井平洲)に謝す。	山水画引謝紀平洲	細井平洲

#### ナa・中西石樵【1733~1807】

(河内茨田の人。大坂天満にあった尾張藩邸の奉行官となる。中井堯庵に学んで、篆刻のほか諸文芸に長じた。特に武器の故事に精通していたという。)

『石樵遺稿』文化四年(1807)序(国立国会図書館本)				
1		冬日、懐を書して柳淇園(柳沢淇園)に寄す。	冬日書懐寄柳淇園	柳沢淇園
2		秋日、高芙蓉、池大雅と共に牛瀧山に登る。	秋日同高芙蓉池大雅登牛瀧山	池大雅

#### ナb・永原南山【永伯綱、?~1786頃】

(大和郡山の人。京都の江村北海に詩文を学ぶ。郡山薬師寺の住職・覚浄上人や郡山藩の重臣・柳沢淇園と親交を結んだ。)

『南山遺稿』天明六年(1786)序跋(国立公文書館内閣文庫本)				
1	巻上	秋夜、淇園柳公(柳沢淇園)を奉訪す。時に書齋新造し、たまたま谷子怨、過らる。同に賦して七陽を得たり。	秋夜奉訪淇園柳公時書齋新造偶谷子怨見過同賦得七陽	柳沢淇園
2		苧蘿山人、病中寄懐せらるるに謝す。	謝苧蘿山人病中見寄懐	苧蘿山人
3	下	中秋、淇園(柳沢淇園)の集。余疾して陪するあたわず。これを賦して奉寄す。	中秋淇園集余疾不能陪賦此奉寄	柳沢淇園
4		秋夜、淇園(柳沢淇園)の集。十二真を得たり。	秋夜淇園集得十二真	柳沢淇園
5		淇園(柳沢淇園)の集。清字を得たり。	淇園集得清字	柳沢淇園



ナc・西河白水【西子淵、生没年未詳(18世紀後半)】

(和泉岸和田の人。江戸に遊んで服部南郭に詩文を学ぶ。宝暦9年、南郭が没したのを機に西帰し、摂津高槻藩に漢学者として仕えた。)

『白水先生遺稿抄』寛政八年(1796)刊(西尾市岩瀬文庫本)			
1		大鵬和尚、黄檗山に再住す。賦して人に代りて呈す。	大鵬和尚再住黄檗山賦呈代人 大鵬正鯤

ナd・野田中洲【1691~1750】

(紀伊和歌山藩士。徂徠学を修めた市井の漢学者・多山陽谷に学んだ。)

『中洲先生遺稿』寛政十一年(1799)刊(東京都立中央図書館加賀文庫本)			
1	巻上	岫巖先生(田中岫巖)を哭し奉る。	奉哭岫巖先生 田中岫巖
2		岫巖先生(田中岫巖)の墓に謁す。	謁岫巖先生墓 田中岫巖
3		井上君、夢に「富嶽の図」を得、覚めてこれを否とす。すなわち遊雪氏(米田遊雪)をして写さしめ、属して余に賛せしむ。よりて題するに小詩を以てし、並びにその祥を記す。	井上君夢得富嶽図覚奇之乃使遊雪氏写而属賛於余因題以小詩并記其祥 米田遊雪

ハa・原双桂【原公瑤、1718~67】

(京都の人。伊藤東涯に学び、私塾を開いていたが、肥前唐津藩主・土井利里に仕えて下総古河に随従した。藩校・盈科堂の学監となった。)

『双桂集』文化七年(1810)序(東京都立中央図書館加賀文庫本)			
1	巻一	また壁上掛く所の文衡山(文徵明)の「東坡、赤壁に泛ぶ図」に賦し、八庚を撰す。	又賦壁上所掛文衡山東坡泛赤壁図撰八庚 文徵明
2		探幽(狩野探幽)の山水画に題す。山下氏のために作る。	題探幽山水画為山下氏作 狩野探幽

ハb・福石室【福益夫、生没年未詳(18世紀後半)】

(和泉岸和田の人。大坂の混池社社に加わり、細合斗南や北山橋庵らと親交を結んだ。)

『石室詩鈔』安永九年(1780)跋(大阪府立中之島図書館本)			
1	巻二	函海上人の画竹の歌。	函海上人画竹歌 函海禅慧
2	四	雪中江山の図、那須某の需めに応ず。[松醉翁(松平醉翁)、図する所と云う。]	雪中江山図応那須某需[松醉翁所図云] 松平醉翁

マa・前田純陽【菅夷長、菅道伯、1713~59】

(肥後宇土藩医の子として生まれ、家職を継いだ。秋山玉山、服部南郭から徂徠学を学び、多くを江戸で過ごした。松崎観海とは特に懇意であった。)

『純陽遺稿』安永七年(1778)刊(西尾市岩瀬文庫本)			
1	巻一	忍海師の画龍を観る歌。	観忍海師画龍歌 忍海
2		龍岡主人(屋代龍岡)の幼女、画蘭に工みなり。賦して以て贈る。	龍岡主人幼女工画蘭賦以贈焉 屋代龍岡の娘

マb・松尾駿淵【1760~1815】

(陸奥三戸の人。盛岡藩士の家系に生まれ、野馬奉行となった。藩の漢学者・田鍬や長谷川龍嶠から詩文を学び、数学や暦学にも精通したという。)

『駿淵詩稿』文政四年(1821)刊(国立国会図書館本)			
1		勝俊兆、北海に遊ぶを送る。[生、画を能くす。]	送勝俊兆遊北海[生能画] 勝俊兆
2		春日、川子長(川村寿庵)に寄懐す。	春日寄懐川子長 川村寿庵
3		川村之長(川村寿庵)、東都に帰するを送る。	送川村之長帰東都 川村寿庵

マc・村松菴溪【松叔豹、1715~87】

(越後頸城の人。江戸に出て服部南郭に学び、同門の安達清河と特に懇意であった。越後高田藩の漢学者として藩主・榊原政永に仕えた。)

『松氏文章』安永三年(1774)刊(国立国会図書館本)			
1	巻五	画を善くする建生に贈る序。	贈善画建生序 建部凌岱か

ヤa・藪慎庵【1689~1744】

(肥後熊本の人。同藩士・藪権右衛門の男で家督を相続し、公務のかたわら家塾を開いて門弟を教授した。藪孤山はその次男。)

『慎庵遺稿』宝暦十年(1760)刊(国立公文書館内閣文庫本)			
1	巻一	墨君微(住江滄浪)	墨君微 住江滄浪
2	四	僧大寧	僧大寧 (住江滄浪)
3	六	墨君微(住江滄浪)、画く所の「岳陽樓の図」の後に書す。	書墨君微所画岳陽樓図後 住江滄浪
4		墨君微(住江滄浪)の詩後に題す。	題墨君微詩後 住江滄浪
5	十	墨君微(住江滄浪)と文選を読む。感あり。	与墨君微讀文選有感 住江滄浪

ヤb・山崎蘭洲【山敬夫、1733~99】

(陸奥弘前の人。同藩医・山崎道有の長男で、江戸、京都、長崎で漢学、医学などを学ぶ。藩校・稽古館の創設に尽力した。)

『蘭洲先生遺稿』文化二年(1805)刊(国立国会図書館本)			
1	巻二	仙台の原雲郷(大原春響)、久しく東都に遊ぶ。客歳、飄然として松前に北遊し、今秋、南帰してまさに岳城山を望まんとす。弘前に過りて諸作を示さる。率爾として報答し、かつ送別す。	仙台原雲郷久遊東都客歳飄然北遊松前今秋南帰將望岳城山過弘前見示諸作率爾報答且送別 大原春響
2	五下	野子彦の画山水軸に題す。	題野子彦画山水軸 荻野絳雪か

ヤc・山田鼎石【山子成、1720~1800】

(美濃岐阜の人。上京して江村北海に学んだ。龍草廬の門人で同郷の宮田嘯台や、美濃神戸にあった善学院の僧・金龍道人らと親しく交わった。)

『鼎石詩集』安永八年(1779)刊(大阪府立中之島図書館本)			
1	巻二	千邨君(千村鷺湖)及び諸子と共に長水に泛舟し、一東を得たり。[君、舟中において山水を模写す。故に結句これに及べり。]	同千邨君及諸子泛舟長水得一東[君於舟中模写山水故結句及之] 千村鷺湖

ヤd・山田北海【田運平、1755～1820】

(長門萩の人。萩藩毛利家の重臣・安田領主宍戸氏の家臣で、郷校徳修館の創設を主導した。萩藩の山根華陽に師事し、藩校明倫館の都講となった。)

『北海集』文化五年(1808)刊(国立国会図書館本)				
1	巻二	大楽翁(大楽探玄)画く所の「朝陽、海を出づる」に題す。吉田氏の需めに応ず。	題大楽翁所画朝陽出海応吉田氏需	大楽探玄
2		画竹に題す。[菊舎尼の需めに応ず。]	題画竹[応菊舎尼需]	菊舎尼
3	三	菊舎尼に贈る叙。(文化2年)	贈菊舎尼叙	菊舎尼
4		豊城先生(蔡沢豊城)七十寿の序。(享和2年)	豊城先生七十寿序	蔡沢豊城
5	五	県子祭(山県鶴江)の画竹に題す。(寛政元年)	題県子祭画竹	山県鶴江 (沈南蘋)

ヤe・山根南溟【1742～93】

(長門萩の人。同藩校明倫館の学頭・山根華陽の男で、家学を受けた。蔡沢豊城と隔年交代で藩校の学頭を務め、藩主に侍講する側儒格に列した。)

『南溟詩稿』寛政九年(1797)刊(国立国会図書館本)				
1	巻一	素白老人を招きて画を屏障に散す。酔後、賦して贈る。	招素白老人画屏障酔後賦贈	素白
2		人日、林麓堂の集。これを賦してその萱堂八十の初度を寿す。余、事ありてゆえに与かることを得ず。	人日林麓堂集賦此寿其萱堂八十初度余有事故不得与焉	(渡辺漢水) (渡辺玄対)
3		夏目、湯呉門、余及び県子祭(山県鶴江)を邀えて舟を松水に泛ぶ。	夏日湯呉門邀余及県子祭泛舟松水	山県鶴江
4	二	宗岡蔵する所の趙子昂(趙孟頫)「八駿の図」に題す。	題宗岡所蔵趙子昂八駿図	趙孟頫
5		蔡豊城(蔡沢豊城)、東都に之くを送る。二首	送蔡豊城之東都二首	蔡沢豊城
6		潮音閣の席上にて、賦して県子祭(山県鶴江)に示す。二首 [子祭、画を善くし、臥遊亭と号す。七八、これに及ぶ。]	潮音閣席上賦示県子祭二首 … [子祭善画号臥遊亭七八及之]	山県鶴江
7		曹溪寺にて筑玄育(劉安生)を追懐するの社を結ぶ。諸彦来集し、余もまた末至す。[寺は麻布絶江に在り。]	曹溪寺結追懐筑玄育之社諸彦来集余亦末至[寺在麻布絶江]	劉安生
8	三	扇面山水に題す。県子祭(山県鶴江)の需めに応ず。	題扇面山水応県子祭需	山県鶴江
9		臥遊亭主人(山県鶴江)に贈る。	贈臥遊亭主人	山県鶴江
10		臥遊亭主人(山県鶴江)、自刻の印章を贈らるるに謝す。	謝臥遊亭主人見贈自刻印章	山県鶴江
11		良城君臣(県子祭(山県鶴江))、丹青の技を以て公朝に昇せらる。これを賦して賀をなす。	良城君臣賦以丹青技昇于公朝賦之為賀	山県鶴江
12		臥遊亭(山県鶴江)の集。賦して有堂師に示す。	臥遊亭集賦示有堂師	山県鶴江
13		春夜、子祭(山県鶴江)来る。詩ありて韻を次ぐ。	春夜子祭来有詩次韻	山県鶴江
14		梅溪(鍋木梅溪)の席上にて、某酒客に贈る。	梅溪席上贈某酒客	鍋木梅溪
15		春雪、梅溪(鍋木梅溪)訪わる。	春雪梅溪見訪	鍋木梅溪
16		菊舎(菊舎尼)に贈別す。	贈別菊舎	菊舎尼
17		東遊の日、襟袂相許す者四人、病中名を呼びて詩を賦す。 …右は鍋木梅溪	東遊日襟袂相許者四人病中呼名賦詩右鍋木梅溪	鍋木梅溪

ラa・劉琴溪【1752～1824】

(安芸山県の人。広島藩家老上田氏の儒臣であった福山鳳洲に学び、その後を継いだ。致仕ののちは大坂平野に隠棲した。)

『静文館詩集』文政二年(1819)刊(国立国会図書館本)				
1	巻中	玉堂翁(浦上玉堂)に贈る。	贈玉堂翁	浦上玉堂
2		雪舟の「山水の図」に題す。	題雪舟山水図	雪舟
3	下	蔵沢翁(吉田蔵沢)に寄す。	寄蔵沢翁	吉田蔵沢

ワa・度会未雅【檀倉雅楽、敬文、生没年未詳(18世紀半ば)】

(伊勢の人。外宮の祠官で、詩集刊行時の位階は従四位上。亀田未雅とは別人で、時期的に一世代早い。弟・末頭(末)の詩は『日本詩選』に収載される。)

『宮水詩集』明和五年(1768)刊(大阪府立中之島図書館本)				
1	巻上	画竹の引。雷洲生(西村雷洲)に贈る。	画竹引贈雷洲生	西村雷洲
2	下	百非上人邀られ、夜過る。千君力之(千村鷺湖)、津君子隣(津金風臣)、先に坐に在り。同に賦して一先を得たり。	百非上人見邀夜過千君力之津君子隣先在坐同賦得一先	千村鷺湖
3		尾張の津応奎(津山北海)、廬山瀑布を因して貽らる。	尾張津応奎因廬山瀑布見貽	津山北海

釈a・志岸円超【生没年未詳(18世紀後半)】

(近江の人。比叡山延暦寺で修行し、天台宗の僧侶となる。のち妙法院門跡・真仁法親王の侍読を務めた。寛政11年に伊勢津の西来寺住職となる。)

『松谿集』享和二年(1802)刊(大阪府立中之島図書館本)				
1	巻下	寂照の月仙上人に寄す。	寄寂照月仙上人	月仙

釈b・日綱知能【南溪上人、1754～1808】

(但馬出石の人。同藩士で父の綱高年右衛門の致仕に伴い京都に出、日蓮宗本願寺の日誠、日酋に従って僧となる。龍草廬や村井中漸に詩文を学んだ。)

『南溪集』文化二年(1805)刊(国文学研究資料館本)				
1	巻五	中秋、村井先生(村井中漸)、諸子と共に月を弊廬に賞で、詩を賦す。	中秋村井先生与諸子同賞月弊廬賦詩	村井中漸
2		春日、邨先生(村井中漸)及び諸子、訪わるるに謝す。紅字を得たり。	春日邨先生及諸子見訪得紅字	村井中漸
3		平柯先生(村井中漸)の周易秘卷贈写の後に題す。平柯先生、年まさに九十にならんとす。病後自ら不倒翁と称す。今茲に甲寅(寛政6年)の春、易を講じて既にして秘卷一軸を以て綱等入室の徒に授く。揮写の後、敬して一絶を題し、以て先生に返璧す。	題平柯先生周易秘卷贈写之後平柯先生年將九十病後自称不倒翁今茲甲寅之春講易既而以秘卷一軸授綱等入室之徒揮写之後敬題一絶以返璧先生	村井中漸
4		邨中漸先生(村井中漸)の八十八寿筵を賀す。	賀邨中漸先生八十八寿筵	村井中漸
5		平柯先生(村井中漸)を追悼す。	追悼平柯先生	村井中漸

釈c・猛火【赤須真人、1716～88】

(伊勢松坂の人。浄土真宗の真台寺四世住職で、悟心、終南とともに松坂の三詩僧として知られる。詩集には青馬東による肖像画が掲載される。)

『赤須真人詩集』安永六年(1777)刊(国立国会図書館本)			
1	卷三	黙道人(佚山)の需めに応じて松を詠ず。	応黙道人之需而詠松 佚山
2		澤宗周(沢辺宗周)、自画の墨竹を贈らる。賦して謝す。	澤宗周見贈自画墨竹賦謝 沢辺宗周
3		曾蕭白(曾我蕭白)に贈る。	贈曾蕭白 曾我蕭白
4	五	甲申(明和元年)中秋、平安の馬東(青馬東)至る。昔遊ぶに感じ、賦して浪華の退甫道士(新山退甫)に寄す。	甲申中秋平安馬東至感昔遊賦寄浪華退甫道士 青馬東
5		黙隠師(佚山)に贈る。	贈黙隠師 佚山

補遺

補a・樺島石梁【1754～1827】

『石梁文集』文化十五年(1818)序跋(早稲田大学図書館本)			
1	卷一	長府の女僧・菊舎、肥後に留まること数月、諸紳縉先生の門に遊ぶ。高本(高本紫溟)、村井(村井琴山)の二叟、けだしその才を愛し、為に和文を作りて序す。…[村は琴山と号し、高は田舎珍人と称す。]	長府女僧菊舎留肥後数月遊諸紳縉先生之門高本村井二叟蓋愛其才為作和文序… [村号琴山、高称田舎珍人] 菊舎尼

補b・高本紫溟【1738～1813】

『紫溟先生遺稿』(古城貞吉・宇野東風・武藤巖男編『肥後文献叢書』第2巻[隆文館 1909年]所収)			
1	卷二	琴山社の茗讌。菊舎田上氏、主となる。	琴山社茗讌菊舎田上氏為主 菊舎尼

補c・細合斗南【1727～1803】

『隠居放言』享和三年(1803)自序(大阪府立中之島図書館本)			
1	卷上	金壺道人(小栗十洲)、長崎より歸りて兼葭堂(木村兼葭堂)に邂逅す。卒に賦して喜贈す。	金壺道人自長崎帰邂逅兼葭堂卒賦喜贈 小栗十洲

## 画人索引

### 〔凡例〕

- ・詩文集からの抽出はできる限り行ったが、繁を避けるため、画に關係する記述のみにとどめた画人には頭に「・」を付した。中国の画人は画關係の記述のみに限った。
- ・日本の画人には簡単な情報を付し、『世界美術辞典』（新潮社 1985年）に掲載される人物については〔美術〕と付した。
- ・『世界美術辞典』に未掲載の画人のうち、『国書人名辞典』（岩波書店 1999年）に掲載される人物には〔国書〕と付した。加えて、江戸時代に刊行された画人の基本情報を記載する著作や人名録のうち、『画乗要略』（白井華陽著 天保2年自序・1831）、『山中人饒舌』（田能村竹田著 文化10年自序・1813）、『竹田莊師友画録』（田能村竹田著 天保4年・1833）、『近世逸人画史』（岡田樗軒著 文政7年写・1824）、『平安人物志』（明和5年・1768、安永4年・1775、天明2年・1782、文化10年・1813）、『浪華郷友録』（安永4年・1775）、『張城人物志』（安永7年・1778）、『古今諸家人物志』（明和6年・1769）に掲載される人物については、それぞれ〔画乗〕、〔饒舌〕、〔師友〕、〔逸人〕、〔平安・（明、安、天、化）〕、〔浪華・安〕、〔張城「□□」部〕、〔諸家〕と付した。ただし『平安人物志』と『浪華郷友録』に関しては、「画家」部に収載される人物のみに限っている。

### 〔あ〕

- 浅井図南【1706～82】 京都の人、尾張藩儒医。墨竹画。〔国書〕〔画乗〕  
(アd-3)
- 五十嵐元誠【1746～84】 越後新潟の人、浚明の次子、画家。〔画乗〕  
(アb-4)
- 池大雅【1723～76】 京都の人、書家、画家。〔美術〕  
(アb-1, e-5, カe-1, f-2, サb-1, タb-4, 22, ナa-2)
- 市川君圭【1736～1803】 近江の人、画家。応挙、蕪村、若冲等の偽作者。〔画乗〕  
(カf-1, 3, 4, 6)
- 佚山【黙隠、見友寺・1702～78】 大坂の人、曹洞宗の僧。〔国書〕〔画乗〕〔平安・安〕〔浪華・安〕  
(アd-1, 釈c-1, 5)
- 伊藤若冲【1716～1800】 京都の人、画家。〔美術〕  
(カd-1)
- 岩井（巖井）江雲【江戸中期】 長崎の人、熊斐門の画家か。  
(カb-1, 4, 8)
- 岩溪嵩台【?～1812】 播磨赤穂の人、福知山藩漢学者、池大雅門の画家。〔国書〕〔平安・天〕  
(アe-2, 6, f-8)
- 上田琴風【1788～1843】 周防大道の人、菅紅嶺門の女流画家、『名数画譜』に書画あり。  
(サb-10, 17, 27, 37)
- 浦上玉堂【1745～1820】 備中鴨方の人、鴨方藩士。〔美術〕  
(サb-20, e-1, ラa-1)
- 雲谷等村【1759～1810】 長門萩の人、雲谷派の画家。等陳のあとを継いで雲谷家宗家となる。天明6年には法橋に叙せられた。  
(サc-9)
- 鉅鹿民部【魏皓・1728～74】 長崎の人、明楽の楽人。〔国書〕〔逸人〕〔平安・明〕  
(サb-18, 19, 22)
- 大倉笠山【1785～1850】 山城笠置の人、中林竹洞門の画家。〔国書〕〔画乗〕〔師友〕  
(サd-2)
- 大塚玉湖【江戸中後期】 越後小千谷の人。狩野梅笑門の画家か。  
(カh-1)
- 大場玉泉【1750～1826】 常陸の人、水戸藩士。〔国書〕  
(タb-9, 11, 14, 19, 20, 35, 36)
- 大原吞響【1761頃～1810】 陸中東磐井の人、漢学者。〔国書〕〔画乗〕〔饒舌〕  
(ヤb-1)
- 岡井赤城【?～1803】 讃岐の人、高松藩漢学者。〔国書〕  
(サb-2, 35)
- 岡田南山【清白主人・1742～1810】 阿波の人、徳島藩漢学者。〔国書〕〔浪華・安〕  
(アb-2, 3, 5)

岡田米山人【1744～1820】 大坂の人、米穀商、のち津藩漢学者。〔美術〕

(タb-6)

荻野絳雪【江戸中後期】 和泉陶器藩の画家。『当時現在広益諸家人名録』天保7年、天保13年版に収載。

(ヤb-2)

・小倉豊季【1781～1830】 京都の人、閑院家系、西園寺分流の公家、小倉家19代当主。神楽を家業とした。〔国書〕

(サd-5)

小栗十洲【?～1811】 若狭小浜の人、常山の弟、漢学者。〔国書〕〔師友〕

(アi-1、補c-1)

### 〔か〕

海門【江戸中期】 龍草廬『草廬集六編』巻3に「僧海門指墨竹」、雲華大含『雲華草』巻11に「海門指墨竹」という題の詩あり。指頭画の墨竹で名を成した。

(アa-25)

勝野范古【江戸中期】 肥前長崎の人、画家。〔画乗〕〔逸人〕〔諸家〕〔平安・明〕

(アd-6)

狩野探幽【1602～74】 京都の人、孝信の長子、幕府奥画師・鍛冶橋狩野家の祖。〔美術〕

(ハa-2)

狩野典信【栄川・1730～90】 江戸の人、栄川古信の子、木挽町狩野家5世。〔美術〕

(タb-30, 34)

鏡木梅溪【1750～1803】 長崎の人、画家。〔国書〕〔画乗〕〔逸人〕

(カb-8、ヤe-14, 15, 17)

神山琴甫【江戸後期】 下野日光の人、島崎雲圃門の画家。文化元年刊『敬輔画譜』に「韓昌黎像」が掲載され、般若塚黒崎家扇面コレクションに1図(貼付番号・C133)あり。

(タb-24)

川村寿庵【?～1815?】 陸奥盛岡の人、医者。〔国書〕

(マb-2, 3)

函海禅慧【1753～1814】 丹後浜村の人、宝泰寺(臨濟宗)の住持。〔国書〕

(ハb-1)

岸駒【1749～1839】 越中もしくは加賀の人、岸派の祖。〔美術〕

(サb-21, 28)

韓天寿【1727～95】 京都の人、青木夙夜の従兄、書家。〔美術〕

(アe-1)

菊舎尼【1753～1826】 長門田耕の人、女流俳人。〔国書〕

(ヤd-2, 3, e-16、補a-1, b-1)

岸(崖)南嶠【1769～1834】 紀伊の人、和歌山藩漢学者。文化6年の「南紀名山新書画展観」を森月航とともに催す。〔饒舌〕

(タb-12)

玉畹梵芳【1348～?】 京都建仁寺、南禅寺の住持。墨蘭画。〔美術〕

(アa-13)

玉翁【旭応灌空、岳陽・1739～1822】 近江山田不動院(浄土宗)の住持。墨竹画。〔画乗〕〔饒舌〕〔平安・化〕

(アc-1, f-2)

玉潏【1751～1814】 近江の人、浄土宗の僧。墨竹画。〔画乗〕〔饒舌〕〔師友〕〔逸人〕〔平安・化〕

(アf-3, 4, 5、サb-32)

月仙【1741～1809】 尾張名古屋の人、浄土宗の僧。桜井雪館門の画家。〔美術〕

(タb-2, 27、釈a-1)

小泉檀山【1766～1854】 下野益子の人、島崎雲圃門の画家。〔国書〕

(タb-16, 24)

・豪潮【1749～1835】 肥後山下の人、京都積善院(天台宗)の住持。〔国書〕〔饒舌〕

(サa-4)

### 〔さ〕

彭城百川【1697～1752】 尾張名古屋の人、薬商、画家。〔美術〕

(アa-4, 17)

佐々木縮往【1649～1734】 長門の人、萩藩漢学者。〔国書〕

(サc-7)



- 沢辺宗周【江戸中期】 伊勢津藩士。[国書]  
(釈c-2)
- 島崎雲圃【1731～1805】 近江日野の人、高田敬輔門の画家。  
(タb-24)
- 清水(楊)伯民【源逸・1712～93】 長崎の人、伊孚九門の画家。[逸人]  
(アd-5)
- 鈴木芙蓉【1749～1816】 信濃伊那の人、阿波徳島藩の画家。[国書][画乗]  
(サe-2, h-1)
- 住江滄浪【1691～1728】 肥後の人、熊本藩士。[国書]  
(タa-4、ヤa-1, 2, 3, 4, 5)
- 青馬東【江戸中期】 京都の人。『赤須真人詩集』に寄せた肖像画に「白陽」の印がある。京都大光明寺が蔵する「朱衣達磨図」の筆者(馬東陳人写)と推察される。  
(釈c-4)
- 雪舟【1420～1506】 備中赤浜の人、相国寺の僧。周文門の画家。[美術]  
(カb-6、サc-8、ラa-2)
- 宋紫石【1715～86】 江戸の人、熊斐門の画家。[美術]  
(タb-1)
- 曾我蕭白【1730～81】 京都の人、高田敬輔門の画家。[美術]  
(釈c-3)

[た]

- 大鵬正鯤【1691～1774】 中国福建の人、黄檗宗の来舶僧。墨竹画。[美術]  
(タa-5、ナc-1)
- 大楽探玄【1716～?】 長門萩の人。狩野永信や常信に学んだ大楽朴水の養子となり、後を継いだ。  
(ヤd-1)
- 高田敬輔【1674～1756】 近江日野の人、狩野永敬、古礪門の画家。[美術]  
(タb-24)
- 竹内守興【1687～1768】 陸奥会津の人、加藤遠沢門の画家。  
(サb-5)
- 建部凌岱【1719～74】 陸奥弘前の人、熊斐門の画家。[美術]  
(アd-4、マc-1)
- 田中岫巖【1695～1770】 紀伊の人、和歌山藩士。[国書]  
(ナd-1, 2)
- 谷文二【1812～50】 江戸の人、谷文晁の次子。[画乗][師友]  
(タb-29)
- 谷文晁【1763～1841】 江戸の人、田安德川家の画家。画塾・写山楼の主。[美術]  
(サb-23、タb-13, 18, 28, 32)
- 千村鷺湖【1727～90】 尾張の人、尾張藩士。[国書][張城「文苑」部]  
(アd-2, 7, h-1、ヤc-1、ワa-2)
- 苧蘿山人【平賀(阮)才二、多田玄介・1732～88】 加賀鳳至の人、医者。彭城百川門の画家。[浪華・安]  
(ナb-2)
- 津田北海【応圭・?～1780】 尾張の人、尾張藩家老。[逸人][張城「画家」部]  
(アd-8、ワa-3)
- 鶴沢探鯨【幽皓・?～1769】 京都の人、鶴沢探山の子、鶴沢派2代。[画乗]  
(アフ-1)
- 天龍道人【渋川虚庵、王瑾・1718～1810】 信濃の人、画家。[美術]  
(サb-3, 4, 6, 7, 8, 11, 14, 29, 38)
- ・東臯心越【興儒・1639～95】 中国杭州の人、曹洞宗の来舶僧。水戸天徳寺の住持。[国書][画乗][饒舌]  
(タb-17, 33)
- 十時梅厓【1749～1804】 大坂の人、伊勢長島藩漢学者。[美術]  
(サb-15, 25, 30)

〔な〕

内藤東甫【正誠、正参・1728～88】 尾張の人、尾張藩士。〔国書〕〔張城「閑人」部〕

(アa-21、サb-26)

中江松篁【杜澂・1748～1816】 京都もしくは近江の人。董九如門の画家。〔国書〕

(アc-2、カa-2,3,4,5,6,7)

長尾秋水【1779～1863】 江戸の人。経世家として諸国を歴遊。〔国書〕

(サe-3)

中林竹洞【1776～1853】 尾張名古屋の人、和漢学者、画家。〔美術〕

(サd-2)

中村応岱【江戸後期】 常陸谷田部の人、島崎雲圃門の画家。般若塚黒崎家扇面コレクションに2図(貼付番号・B110、D99)あり。『江戸方角分』は住所を江戸の「飯田町」とする。法橋位にあった。

(タb-24)

中山高陽【1717～80】 土佐高知の人、漢学者。彭城百川門の画家。〔美術〕

(タc-1)

・錦小路頼尚【1743～97】 京都の人、平安時代以来の医家であった丹波家後胤の公家、錦小路家25代当主。

(サb-24)

西村雷州【江戸中期】 伊勢尾上の人。画家。

(ワa-1)

丹羽嘉言【1742～86】 尾張名古屋の人、尾張藩士。〔美術〕

(アa-18,19,23)

忍海【白華忍海・1696～1761】 浄土宗、増上寺の僧。〔国書〕

(マa-1、タa-1,2)

野際蔡徴【1778～1849】 紀伊の人、和歌山藩士。野呂介石門の画家。〔画乗〕

(タb-21)

野呂介石【1747～1828】 紀伊の人、和歌山藩士。池大雅門の画家。〔美術〕

(タb-21,23)

〔は〕

英一蝶【1652～1724】 京都の人、狩野安信門の画家。英派の祖。〔美術〕

(カg-1)

林十江【1778～1813】 常陸水戸の人、醸造業。〔美術〕

(タb-25)

繁沢豊城【1732～1806】 萩藩藩校・明倫館6代学頭。『近世藩校に於ける学統学派の研究』(笠井助治著 吉川弘文館1969年)に収載。

(サc-3,5,10,11、ヤd-4,e-5)

・細井平洲【1727～1801】 尾張の人、尾張藩漢学者。〔国書〕〔饒舌〕

(タd-1)

〔ま〕

増山雪斎【1754～1819】 伊勢長島藩主。〔美術〕

(アg-1)

松平酔翁【忠敦、丹下・1697～?】 摂津尼崎藩家老。

(ハb-2)

円山応挙【1733～95】 丹波亀山の人、石田幽汀門の画家。円山派の祖。〔美術〕

(タb-26,c-2)

三熊花顔【1730～94】 京都の人、大友月湖門の画家。桜画。〔美術〕

(アa-22)

御菌中渠【1706～64】 京都の人、針医。墨竹画。〔国書〕〔画乗〕

(アa-8)

三井丹丘【1729～1811】 伊勢丹生の人、医者、画家。〔国書〕

(サd-6)

宮崎筠圃【1717～74】 尾張の人、漢学者。墨竹画。〔国書〕〔画乗〕

(アa-6,8,e-3,f-7)

明堂宗宣【1768～1837】 丹波の人。大徳寺（臨濟宗）の住持。墨竹画。  
（サd-1）

村井中漸【1708～97】 肥後熊本の人、漢学者、医者。〔国書〕〔画乗〕  
（釈b-1, 2, 3, 4, 5）

望月玉蟾【1693～1755】 京都の人、山口雪溪門の画家。〔美術〕  
（アa-3, 14）

森蘭斎【1731～1801】 越後新井の人、医者。熊斐門の画家。〔国書〕〔画乗〕〔浪華・安〕  
（サb-31）

〔や〕

柳沢淇園【1704～58】 大和郡山藩の重臣、画家。〔美術〕  
（サd-3、ナa-1, b-1, 3, 4, 5）

矢野良勝【1760～1821】 肥後熊本の人、同藩御用画師。雲谷派の画家。  
（サa-1, 2, 3）

・山内俊度【江戸中期】 肥後熊本藩士。藪孤山編『学泮集』に「山真、復姓山内、字俊度、一字次郎助、縣尹」とあり。  
（サa-5, 6, 7）

山県鶴江【1754～1802】 長門萩の人、漢学者、画家。〔国書〕  
（カb-2, 3, 5, 7, 9、サc-1, 2, 4、ヤe-3, 6, 8, 9, 10, 11, 12, 13, d-5）

山科李蹊【宗安・1702～47】 京都の人、御典医。墨竹画。〔国書〕〔画乗〕  
（アa-5, 26）

吉田藏沢【1722～1802】 伊予の人、松山藩士。墨竹画。『三百藩家臣人名事典』（新人物往来社 1988年）松山藩に収載。  
（ラa-3）

米田遊雪【江戸中期】 狩野正栄門の画家。紀伊和歌山藩の画家・笹川遊泉と同門。『古画備考』に「遊雪景信」として掲載。  
（ナd-3）

〔ら〕

劉安生【筑玄育・1736～90】 安芸の人、広島藩医。諸葛監門の画家。〔逸人〕  
（ヤe-7）

〔わ〕

渡辺玄対【1749～1822】 江戸の人、湊水の養嗣子、赤水の父、画家。〔国書〕〔画乗〕〔諸家〕  
（カh-2、タb-3, 7, 15、ヤe-2）

渡辺湊水【1720～67】 江戸の人、玄対の義父、画家。〔国書〕〔饒舌〕〔逸人〕〔諸家〕  
（ヤe-2）

〔中国〕

徽宗【北宋人】（カc-1）

仇英【明人】（アe-4）

祝允明【明人】（サb-34）

沈南蘋【清人・来舶】（ヤd-5）

大鵬正鯤 上記参照

張璠【明人】（タa-3）

趙孟頫【元人】（アa-10、ヤe-4）

陳淳【明人】（アa-17）

唐寅【明人】（サb-9, 16, 34）

董其昌【明人】（サb-34）

東皐心越 上記参照

費漢源【清人・来舶】（タb-5）

文徵明【明人】（ハa-1）

李衍【元人】（アa-24）

陸治【明人】（サc-6）

劉世儒【明人】（アa-12）